

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年8月22日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」 地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」～退院支援について～
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年8月22日(火) 袴田公民館 午前の部(参加者17名)

- ・「できることなら、いつまでも自分の家で暮らして行きたいけど...そう上手くいけばいいですよね...」なかなか難しいと思います。
- ・「ポックリが一番！」今後についてあまり考えていないとの返答が大部分でした。
- ・101歳の母を自宅で看ています。今日の話は共感しながら聞いていました。母も「自宅がいい。」と言います。大変な時もありますが、自宅で見てあげたい気持ちは良く分かります。

(70歳代の方を中心に比較的元気な方が多い参加状況でした。館長さんの会話の中に台風時の対応として、高齢者の一人暮らしの方の戸締りや片づけの手伝いの訪問支援のお知らせもあり、地域の人を見守る支援を積極的に行っている印象を受けました。)

平成29年8月22日(火) 袴田公民館 午後の部(参加者25名)

- ・今の所、元気で過ごしているので実感がわきませんが、今日話を聞いて少しずつ考えておくことかな...と感じました。
- ・話を聞いて、だいたい分かりましたが、先の事を思うとやはり心配です。
- ・自己判断ができなくなった時の手続きの仕方とか、今後相談したいと思います。
- ・自分の父親の時、延命処置の所で色々思う事がありました。やはり自分の考えや治療、延命処置についてなど、子供たちに伝えることで安心すると思います。

(訪問介護や介護サービスを利用して歩けない人も自宅で生活している方もいると聞いたこともあるとの話や、自分の考えを元気なうちに伝えたり、書き残しておく事は大事だと思います。など、講話終了後のご意見として会場の皆さんになげかけて頂きました。)

